アルゴリズムとデータ構造入門-14 2006年1月17日

アルゴリズムとデータ構造入門

Sorting(整列) Hashing(ハッシュ法)

奥 乃 博

11年前の今朝

阪神・淡路大震災

犠牲者死者だけで6434人

天災は忘れた頃にやってくる (寺田寅彦) 天才は忘れた頃にやってくる (奥乃博)

1月17日・本日のメニュー

- 1. vector (ベクタ)
- 2. Sorting (整列)
- 3. hashing(ハッシュ法)
- 4. アンケート(最後の15分)
- 配布する用紙に名前を記入して下さい。
- 回収は学生同士で。
- 教員は一切タッチしません。(退場!)

2



Sorting (整列)

- 内部整列(internal sorting)
 - データはすべて主記憶上に置いて整列
 - 1. 作業領域を極力減らす。
 - 2. 比較回数を極力減らす。
- 外部整列(external sorting)
 - ・ 外部の記憶装置を用いて整列
 - 3. 主記憶と補助記憶との間でのデータ転送回数を極力減らす。

		_
_		_
_		_
_		_
_		_
_		_
-		_
-		_
-		_
_		_
_		_
_		_
_		_
_		_
_		_
_		_
_		_
_		_
_		_
		_
		_
		_
		_



Internal Sorting(内部整列)

- 逐次入力型
 - 挿入ソート(insertion sort)
 - ヒープソート(heap sort)
- バッチ型
 - クイックソート(quick sort)
 - ・ バブルソート(bubble sort)
- その他(外部整列と共通)
 - マージソート(merge sort、併合ソート)

4

=

クイックソートの補足

- pivotのとり方は工夫が必要
- すでに並んでいる場合には、最小あるい は最大要素を pivot に取ると最悪。
- 適切な pivot を取れば、

 $\Theta(n \log n)$

- リスト使用の場合は、pivot 選択がリスト 辿りが必要。コストが重い。
- ベクタ使用の場合には、コストが軽い。

5

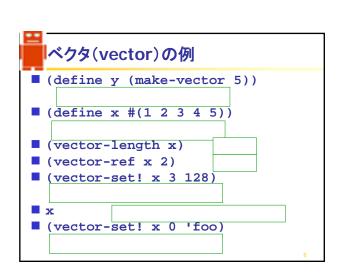
==

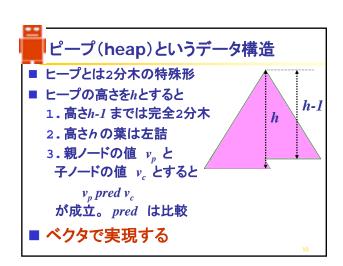
新しいデータ型:ベクタ(vector)

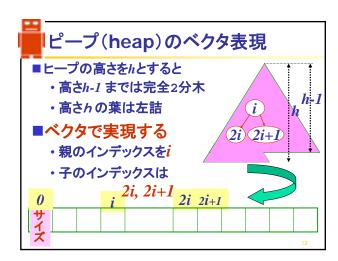
- データの並びを表現するデータ型
- #(《要素₀》...《要素_{n-1}》)
- インデックス(index)はOから始まる(0-origin)
- ■《要素》は任意のデータ
- いわゆる1次元配列(array)
- Constructor(構築子)
 - (make-vector 〈サイズ〉 [〈データ〉])
 - (vector $\langle \vec{r} \beta_0 \rangle \cdots \langle \vec{r} \beta_{p-1} \rangle$)
 - (list->vector 〈リスト〉)

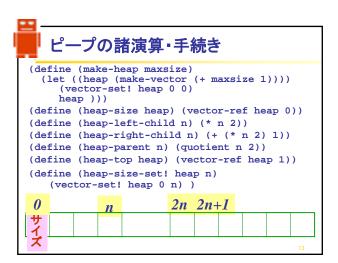
6

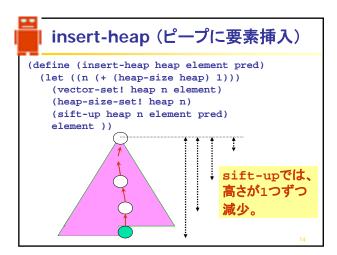
新しいデータ型:ベクタ(vector)(続) Selectors(選択子) (vector-ref 〈ベクタ〉〈インデックス〉) その他 (vector-length 〈ベクタ〉) サイズを返す (vector-set! 〈ベクタ〉〈インデックス〉〈データ〉) (vector->list 〈ベクタ〉) 入出力は #(1 2 3 4 5)



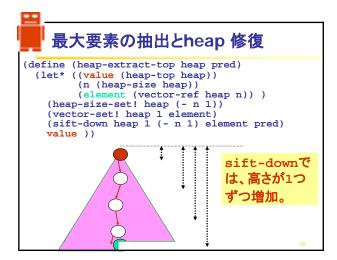


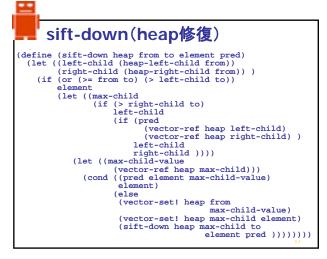






```
sift-up(heap修復)
(define (sift-up heap from element pred)
 (if (<= from 1)
     element
     (let ((parent (heap-parent from)))
       (let ((value (vector-ref heap parent)))
         (cond
            ((pred value element) element)
            (else
              (vector-set! heap from value)
              (vector-set! heap parent element)
              (sift-up heap parent element
                      pred )))))))
■ 1回繰り返すと高さが1減少
                           \Theta(\log n)
■ 要素数を n とすると計算量は
```





```
ヒープソート(heap-sort)
(define (heap-sort records . args)
  (let ((pred (if (null? args) >= (car args)))
        (heap (make-heap 100))
       (result ()) )
    (for-each
      (lambda (i) (insert-heap heap i pred))
      records)
    (do ((i (length records) (- i 1))
         (result nil) )
     ((<= i 0) (reverse result))
(set! result</pre>
       (cons (heap-extract-top heap pred)
             result )))))
■ ヒープソートの計算量
                        \Theta(n \log n)
```

ヒープソート(heap-sort)の正しさ

- ベクタ *x* のヒープ成立条件 *heap(m,n)* $\forall i \in [m+1, n] \quad x[i/2] \le x[i]$
- sift-down では
 - ・実行前: heap(1,n)の成立は?
 - ・実行後: heap(1,3) が成立。
- i回目の sift-down では
 - ・実行前: heap(1,k)は成立, heap(k,n) ?
 - ·実行後: heap(k,2k+1) が成立。
 - ・つまり、*heap(1,2k+1)* が成立。



| ヒープソート(heap-sort)の正しさ(2)

- ■ベクタx のヒープ成立条件 heap(m,n) $\forall i \in [m+1, n] \quad x[i/2] \le x[i]$
- ■sift-up では
 - ・実行前:heap(1,n) 成立, heap((n+1)/2,n+1) だけが?
 - ・実行後: heap((n+1)/4,(n+1)/2) は?
- ■i回目の sift-up では
 - ・実行前: heap(k/2,k)? 他は成立。
 - 実行後: heap(k/2,n) 成立, heap(k/4,k/2)?

```
パブルソート(bubble sort)実行トレース

9 1 8 2 5 3 0 7 4

9 8 1 7 2 5 3 0 4

9 8 7 1 5 2 4 3 0

9 8 7 5 1 4 2 3 0

9 8 7 5 4 1 3 2 0

9 8 7 5 4 3 1 2 0

9 8 7 5 4 3 2 1 0
```

バブルソート(bubble sort)の計算量	
1回ごとに敷居()が1つずつ減る	
$\sum_{i=1}^{n} (i-1) = \frac{1}{2}n(n-1)$	
$\Theta(n^2)$	
24	



シェルソート(Shell sort)

- バブルソート: 隣接データを比較
 - *h=1*
- 飛び飛び(h)に比較
 - $h_k = 3h_{k-1} + 1, ..., 1$ の時
 - e.g., 40, 13, 4, 1

 $\Theta(n^{1.25})$

25



マージソート(併合ソート、merge sort)

- ソート済みのデータを前からマージ(併合)
- リスト版
- ベクタ版
- 計算量は両方のデータのスキャンのみ
- m 個のデータとすると

$$\Theta(m+n)$$

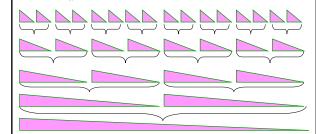
■ 空間計算量も余分に

$$\Theta(m+n)$$



内部マージソート(In-place merge sort)

■ 分割統治型

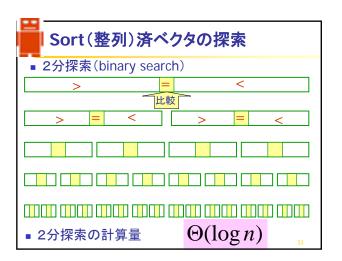


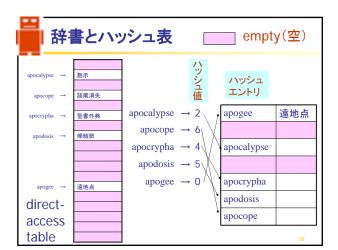
ラン(run)と言う

 $\Theta(n \log n)$

Sorting (整列) のまとめ ■ 選択ソート (selection sort) $\Theta(n^2)$ ■ 挿入ソート (insertion sort) $\Theta(n^2)$ 定数小 ■ シェルソート (Shell sort) $\Theta(n^2)$ 定数小 ■ シェルソート (Shell sort) $\Theta(n^{1.25})$ ■ クイックソート (quick sort), 分割統治法 (devide and conquer) ■ 平均 $\Theta(n\log n)$ 最悪 $\Theta(n^2)$ ■ ヒープソート (heap sort) 常時 $\Theta(n\log n)$ ■ マージソート (merge sort) 常時 $\Theta(n\log n)$

Sorting(整列)のデモ Java のデモプログラム http://winnie.kuis.kyoto-u.ac.jp/ ~okuno/Lecture/05/IntroAlgDs/





左写真:http://allabout.co.jp/gourmet/cookingmen/closeup/CU20050310A/kansei.jpg 右上写真:http://shop.kansai.com/img/050519/meets_hafuu.jpg 右下写真:http://shop.kansai.com/img/050519/meets_kodakara.jpg

	3
📙 ハヤシライスを	知っていますか
■ hashed beaf ■ 語源は同じ	R
	39

ä

ハッシュ法(hashing)

- キーの値の探索なしにアクセス
- Nッシュ関数(hash function)キー ⇒ ハッシュ値(整数)
- ハッシュ表 (hash table)、サイズ M
- 占有率(load factor) α 、データ量 N $\alpha = N/M$
- 異なるキーに対してハッシュ値が同じ ハッシュ値の衝突(collision)



ハッシュ関数(hash function)

- 設計の指針: ランダム性を有するもの。
- $= +-: x = a_1 a_2 \cdots a_n \quad key(x) = m$
- \mathbf{M} 1:キーから $h_1(x) \equiv m \mod M$
- 例2: 文字列から整数への写像

$$h_2(x) \equiv \sum_{i=1}^n code(a_i) \mod M$$

■ 例3: m²の中央部分の logM 桁分を使用

 $h_3(x) \equiv \lfloor m^2 / K \rfloor \mod M$

where constant *K* such that $MK^2 \cong N^2$

ハッシュ法の基本手続き

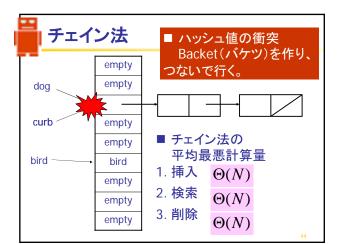
- 挿入(insert) hash表にkeyを持つデータを挿入
- 検索 (member) hash表からkeyでデータを検索
- 削除(delete) hash表からkeyを持つデータを削除

42

ハッシュ値衝突(collision)対処法

- チェイン法(chaining, separate chaining, 連鎖法、内部ハッシュ法)
- 開番地法(open addressing, オープン法、 外部ハッシュ法)
 - 1. 線形走査法(linear probing)
 - 2. 万能ハッシュ法 (universal hashing)
 - 3. 2重ハッシュ法(double hashing) h,gとすると、

h(x), h(x)+g(x), h(x)+2g(x), h(x)+3g(x),



内部ハッシュ法(internal hashing)

- ハッシュ関数 h_i ■ 占有率 α
- エントリに状態を導入 empty/deleted/key(データ)
- 1. 挿入: empty/deleted というフ ラグのあるエントリに入れる
- 2. 検索: empty/deletedまで探す。
- 3. 削除: deletedというフラグを立てる。

empty	
empty	
empty	
deleted	
empty	
empty	
+- 1	データ1
empty	
empty	
empty	
+-2	データ2
empty	
empty	
empty	
empty	

データ1
データ2

────────────────────────────────────	ng)	
■ハッシュ関数 <i>h</i> ■衝突発生時	empty empty empty empty empty empty empty empty	
・empty/deleted というフラグ のあるエントリに入れる ■検索 ・empty/deletedまで探す。 ■削除	empty	
• deletedというフラグを立てる。	empty empty 46	
Total Tota		
■ハッシュ関数 h, *** ■ハッシュ関数をランダムに選択 ■挿入 • empty/deleted というフラグ	empty empty empty empty empty empty empty	
のあるエントリに入れる ■検索 • empty/deletedまで探す。	empty empty empty empty empty empty empty	
■削除 • deletedというフラグを立てる。	empty empty empty empty	
三 2重ハッシュ法(double ha	shina)	
■ハッシュ関数 h,g	empty empty	
■衝突発生時 $h_i \equiv h + ig \bmod M$	empty empty empty	
■挿入 • empty/deleted というフラグ	empty empty empty	
のあるエントリに入れる ■検索	empty empty empty	
・empty/deletedまで探す。 ■削除	empty empty empty	
・deletedというフラグを立てる。	empty 48	

線形走査法(linear probing)の例

- 1. h(dog)=2
- 2. h(Kyoto)=4
- 3. h(Univ)=0
- 4. h(Informatics)=2
- 5. h(SICP)=3
- 6. h(test)=8

empty	
omnty	
empty	
empty	

=

線形走査法の挿入の計算量

1. n個のデータが格納、n+1個目のデータを挿入 するときにh:(x)がi回目で空いている確率

$$\frac{n}{M}\frac{n-1}{M-1}\frac{n-2}{M-2}\cdots\frac{n-i+1}{M-i+1}$$

2. 空きセルを見つけるまでの比較回数

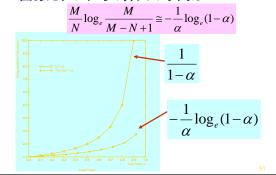
$$1 + \sum_{i=1}^{M-1} \frac{n(n-1)\cdots(n-i+1)}{M(M-1)\cdots(M-i+1)} \cong 1 + \sum_{i=1}^{\infty} \left(\frac{n}{M}\right)^{i} = \frac{M}{M-n}$$

3. ハッシュ表にN個のデータを挿入する手間は

$$\sum_{n=0}^{N} \frac{M}{M-n} \cong \int_{0}^{N} \frac{M}{M-x} dx = M \log_{e} \frac{M}{M-N+1}$$

線形走査法の挿入の計算量(続)

4. 1回あたりの平均の挿入の手間は





線形走査法の検索の計算量

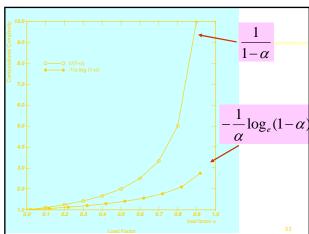
- 1. deleted はないものと仮定
- 2. 表にキーがない時は、n=N の挿入と同じ

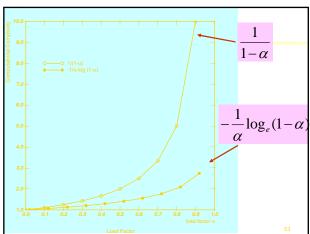
$$\frac{M}{M-N} = \frac{1}{1-\alpha}$$

3. 表にキーがある時

$$\frac{M}{N}\log_e \frac{M}{M-N+1} \cong -\frac{1}{\alpha}\log_e (1-\alpha)$$

- 4. 削除も検索と同じ
- 5. 上記の解析は、一様ハッシュ(uniform hashing)を仮定: キーの探索列ランダム





左上教科書表紙:http://mitpress.mit.edu/images/products/books/0262011530-f30.jpg

-	
-	
Beck	
1 78	

宿題はありません

- 期末テスト、健闘を期待します。
- 必修課題3もお忘れなく。
- 随意課題の提出でランクアップを。

テスト: 2月7日3限





